桜　咲く

学校長　　遠藤　淳子

寒暖差の大きな日々が続いています。スロープからは、桜の蕾が一段と大きく膨らんでいることが見て取れます。晴天の日には、遠くに望む冠雪の富士と青空とのコントラストが見事で、見ているだけでお目出たい気分になってきます。暖冬というには、言葉が余るほど暖かな陽気が続き、１年生が植えている球根からは、水仙やチューリップ、クロッカスなど、色とりどりの春の花が早くも咲き、進級や卒業の祝意を表しているかのようです。

昇降口前の柏の葉は、秋枯れのまま、春を迎えようとしています。各学年の引継ぎや受継ぎを見守ってから葉を落とし、希望と夢をたくさんつめて開く新芽に未来を託していくのでしょう。

地域・保護者の皆様におかれましても、この１年間、柏の葉のように、途切れることなく、学校と子ども達をお見守りくださいまして、ありがとうございました。この３月、６年生は、小学校生活の義務教育を終え、中学校という次なるステージへと進んでいきます。１年生から５年生までの在校生も、６年生からのバトンをしっかり受け継いで新入生を迎え、次なるステップへと歩みを進めていく準備を始めています。

２月の土曜参観では、各学年クラスが、これまでの成長した姿をお家の人に見せたいと、練習に取り組んでいました。小机の子ども達は、本当に純粋で素直です。良いところを褒めていくと、にっこり笑って「ありがとうございます。がんばります。」という言葉が、どの学年からも返ってきます。教室に入るとすぐに「今は、この時間で、〇〇がもう少しなので話し合っているところです。」などと、今の状況を説明してくれます。「頑張っていますね。応援しています。」と伝えると、やはり、にっこりして「ありがとうございます。」と引き締まった表情を見せてくれます。いつでも、応援したくなる子ども達です。

桜は、暖かくなったら咲く、春になったら咲く。これは、当たり前に思えることかもしれません。ただ、科学的には、一度気温が下がり、寒くなった時期に枝が休眠してこそ、次に暖かくなったら咲く（休眠打破）ということが分かっているそうです。転じると、厳しい状況も、時として、次の「サクラサク」には、必要なことなのかもしれないと思います。素直な気持ちで物事を受け入れることができる子ども達に、桜が咲くこの時期には、エールとして送りたい言葉でもあります。

物事は、考え方ひとつで、プラスにもマイナスにも捉えることができます。５年生に特別講座を６回してくださったコーチングの橋口さんは、「よいイメージをもつこと・よい言葉を遣うこと・信じてみること」が物事を考える時には必要だと、教えてくださいました。時に、思い通りにならないこと・理不尽に思えることに人はぶつかります。そんな時、自分の精神が健康で安定していけるためには、前述の「サクラサク」と同じように、強くしなやかな考え方をもつことも必要なのかもしれません。全校に回した「大谷グローブ」と大谷選手からのメッセージのように、目標や夢の実現のための具体的な行動をおこしていきたいものだとも思います。

今後も、社会の変化に柔軟に対応しながら、「令和の学校教育」の創造に努めます。次年度におきましても、本校の教育活動へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。